

前回のあらすじ

バッフル板の樹種をスピーカー工作で一般によく使用される木材と、さらにアクロージュファニチャーの十八番無垢材とで聴き比べ、圧倒的に無垢材が良いという結果になった。しかし木材はそのままではいい音がしないという情報が入手。では仕上げによってどう音が変わるのか。前回実験で使用したバッフル板を再利用して仕上げによる音の違いを実験した。

岸 スピーカーの仕上げで代表的なものとして、木に浸透するオイル仕上げ



前は、バッフルの素材をMDF、パーティクルボード、ラワン合板、フィンランドパチ合板、メープル無垢板で聴き比べた

表面に塗膜を作るニス仕上げ、表面をベタ塗りするペンキの3種類の違いを聴いてみましょう。前回製作したバッフル板を使用して、表面の仕上げの音の違いを検証します。まずはMDFのオイル仕上げを聴いてみましょう。

吉 その前にオイル仕上げについて具体的に教えてください。
岸 オイル仕上げにも色んな材料がありますが、今回使用したのは、いわゆる木固め剤と言って、木の内部に浸透して木自体を硬化させるものです。木が持つ個性を殺さず音が良くなるのではないかと予想しています。では聴いてみましょう。

吉 今回、試聴用に持ってきたLPはザ・バンドのセカンドアルバムと『ニール・ヤング・ウィズ・クレイジー・ホース』です。ではお願いします。

① MDFオイル仕上げ

吉 うむ、これは明らかに良くなりましたね。やっぱり仕上げは大事なんだ。岸 音のピントが合って、まとまりましたね。

吉 こうやって改めて聴くと、無塗装のままのMDFは音がぶれて、滲んで高域がうるさい感じがしました。岸 無塗装の状態ですと聴くのは、

ニス仕上げ、ペンキ仕上げ、オイル仕上げの3パターンを聴いてみましょう。

③ メープル無垢板 ニス仕上げ

岸 音に押し出し感が出ますね。余韻も奥行も出てきて、いい音になっていくんだらうけど、つまなくなりました。

吉 スピーカーから2歩くらい音が前にきますね。勢いもあってレンジも広い。オーディオ的にはいいのかもしれないけど、なんかつまんない。無垢の「音が弾む楽しさ」が抑えられてしまった感じがありますね。

岸 これだったら、仕上げ前の方が聴いて楽しかったです。この、音の窮屈な感じは、空気の密閉度が上がって逃げ道がなくなったせいなのかも。ニスで表面に塗膜を作ってしまうことで、木の響きが抑えられてしまったのか。では、さらにしっかりと塗膜を作るペンキも聴いてみましょう。

④ メープル無垢板 ペンキ仕上げ

吉 これはある意味凄い。ベースが重たいし、全ての音がくっきりと聴こえる。ただし心地よさとか、雰囲気はまったくない冷徹な音です。音の解像感とかで言えば最もモニターの感覚ですね。

連載 新感覚オーディオクラフト

億流スピーカー!

第6回 ベストな塗装/仕上げを探せ

アクロージュファニチャー 岸邦明 × ステレオ編集部 吉野

アクロージュファニチャー <http://www.acroge-furniture.com/>

正直疲れますね。では、前回印象の良かったパーティクルボードでのオイル仕上げを聴いてみましょう。

② パーチクルボード オイル仕上げ

吉 いやーいいですね。前回の実験でもそうでしたが、個人的にパーティクルの音が好きです。明るくて楽しい。仕上げに関しては、先ほど聴いたMDFと同じ傾向でシンプルに全体的に良くなってる感じがですね。ベースはさらに弾み、ソリッドな演奏になりました。これは満足度が高い。

岸 オイル仕上げいいですね。低域がしっかりと出てくるし、パーティクル特有のゆるめの温かい音で聴いてて楽しいですね。素材の良さをしっかりと引き出して感じる感じがします。パーティクルって音が漏れてくるのか、滲み出てくるような、解放感のあるストレスフリーな音がしますね。

吉 JBLのスタジオモニターシリーズはバッフルにパーティクルが使われているのもあってか、JBLのユニットと相性いい気がしますね。イメージするJBLサウンドに近いです。自分が身近な材料でスピーカーを作るとしたらパーティクルを選びますね。

岸 では、本命のメープル無垢板で、



試聴ごとにユニットを取り外しバッフルを交換していく作業はなかなか大変



MDFオイル仕上げ。表面がコーティングされて傷や汚れにも強くなる



バッフルの表と裏を使用して、表面の仕上げによる音の違いを聴き比べる

岸 音の芯がしっかりとりますね。今まで気にならなかった細かい音も聴こえる。でも無垢の良さみたいなのも全部で封じ込められてしまいましたね。例えば木の響きなどを求めないMDFだったら、ペンキ仕上げはありじゃないかな。バッフル表面の固さによる影響は大きいようですね。では本命の無垢板でオイル仕上げを最後に聴いてみましょう。

⑤ メープル無垢板 オイル仕上げ

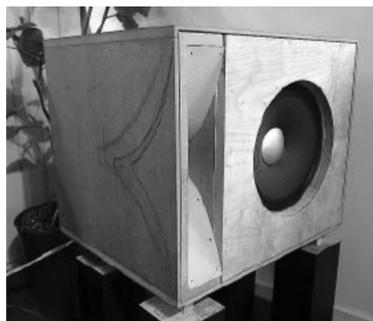
吉 ありがとうございます。文句なしに素晴らしいです。前回ですら完璧に感じた無垢がさらにパワーアップしてます。

岸 なんて言えはいいの、音離れが凄いですね。スピーカーから音が出てくる感じがなくなると、より自然に音が空間を満たします。吉 無垢にはオイルが間違いない一番向いていますね。

岸 予想どおりの結果で良かったです。無垢材とオイルの組合せに確信を持ちました。次回はいよいよ、バッフル以外もオール無垢材による、ほぼ完成形に近い試作機2号を作ります。それを使ってさらに細かくチューニングしていきましょう。



白いペンキでベタ塗りされたメープル無垢板。ペンキは木自体の個性を抑え込むようだ



アクロージュ工房でバッフルにニス塗りを乾燥中のスピーカー。表面がテカテカし、しっかりした塗膜を形成



パーティクルボード オイル仕上げを装着する岸氏

SPクラフトマスターの辛口コメント 今回も有意義な実験になったようだ。仕上げをしない箱は完成品ではない。日本は湿気が多く、箱を長く使用するためにも仕上げは必須だ。エンクロージャーは音の出が良い物ほど調整が難しい。違う木種の箱とバッフルとの組合せでどのようになるのか楽しみだ。調整ではエージングも大事だ。収めたら最低1週間は鳴らし込んで評価をするいい。